

—沼津市—

公民連携による公共施設のリノベーション 「泊まれる公園INN THE PARK」

1. はじめに

沼津市では、平成27年度から「リノベーションまちづくり」をまち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げ、地方創生に取り組んでいる。

本市の目指す「リノベーションまちづくり」とは、市内に増加する空き家や空き店舗等の民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設・公共空間など、既にあるものを公民連携の手法により活用し、質の高い雇用の創出や新たな産業振興などにつなげ、まちの再生を図るものである。

この取組みを通じて、これまでに38を超える事業が創出され、まちに新たな価値を生み出し、魅力の増進につながっており、本稿では、その成果の一つである民間活力を活用した公共施設のリノベーション事例を紹介する。

2. 泊まれる公園INN THE PARKの誕生

(経緯)

昭和48年に開所した旧沼津市立少年自然の家は、沼津市北部の愛鷹運動公園内に位置し、青少年の健全育成を目的とした教育施設として、ピーク時には年間延べ4万人を超える利用があったが、近年では1万人を割り込むようになり、事業仕分けや行政改革の提言等を経て、利用形態の見直しを図る中で、市直営の教育施設としては廃止し、民間活力を導入した新たな施設活用を目指すこととなった。

同時期、公共施設マネジメント計画の策定を進めており、本市公共施設の維持・更新にかかる費用の膨大が将来的な課題として顕在化する中、一般的であった業務委託や指定管理者制度によらない、民間の自由な発想等を最大限生かす「稼ぐ公民連携」に着目し、導入手法や実現可能性等を探求していった。

(事業者の選定・開業)

民間のアイデアや活用意向等を得るためにサウンディング調査を実施し、求める条件と自由な提案領域等を整理した上で、公募型プロポーザル方式で事業者募集を行った結果、平成28年6月に株式会社オープン・エーを選定。その後の度重なる協議を経

て、同年11月に子会社である(株)インザパークと3社協定を締結し、宿泊施設「泊まれる公園INN THE PARK」として平成29年9月にオープンした。



泊まれる公園 INN THE PARK

(特徴)

実現プロセスで特徴的なものは、都市公園法における公園施設設置管理許可を採用していること、一般財団法人民間都市開発推進機構の「マネジメント型まちづくりファンド支援事業」の全国第1号として沼津信用金庫が創設した「ぬまづまちづくりファンド」から資金調達したこと、などが挙げられる。



広大な自然空間の中、森に浮かぶ「球体テント」

3. おわりに

民間事業者は単に施設を管理・運営するだけでなく、市とともに公園全体の価値を高める取組みを行っている。当施設が出来たことで、既存イベントの質の向上や、大規模イベントの誘致・開催、そして新たに広がる公園の利用等に影響を与えている。

(沼津市 都市計画部 緑地公園課 風間 一毅)